



12月22日(金)に、本校体育館において第2学期終業式が行われました。

荻野校長が述べた式辞の一部を紹介します。

(前略)

今日は1冊の本を紹介します。今ベストセラーにもなっている本なので皆さんの中にも、もう読まれた人がいるかもしれません。私は、本来いわゆるベストセラーなる売れ筋の本は、読まないぞというひねくれたところがあるのですが今回は、書店でなんとなく手に取ってぱらぱらとめくったところ、これは読まなければと直感した珍しい本です。題名は「君たちは どう生きるか」という本です。

今話題になっているこの作品が刊行されたのは、1973年(昭和12年)、第2次世界大戦が始まる2年前、今からちょうど80年前のことです。作者は吉野源三郎さん、東京帝国大学(現在の東京大学)で哲学を修めた方で、岩波新書を創刊、論壇誌「世界」の編集長や岩波文庫の創設に尽力した方です。

時代は、荒れ狂うファシズムの中、戦争へと突き進む重苦しい空気が広がる日本において、「人間とは」を子どもたちに語りかけるために書かれた哲学書、道徳の書だと考えられます。

主人公は、中学2年生(今の学制とは違って、多くの子どもは尋常小学校で学歴を終了していましたので、80年前の中学生はかなりの選ばれたエリートです)男子。あだ名は「コペル君」といいます。

父親を亡くした彼が、学校の仲良し仲間とその姉や、近所に引っ越してきた元編集者の叔父(母親の弟)との会話や手紙での交流を重ねていくうちに、成長していく様子が書かれています。

あくまでも中学生の日常の出来事を表した本ですが、内容的には皆さんのような高校生にも通じるころがあると考えます。

①銀座のデパートの屋上から景色を眺める場面から話は始まります。

②学校でのいじめとその対応を考えさせられる場面があります。

③豊かさは何か、格差とは何か、経済学を考える場面があります。

④ある英雄の話から、歴史の読み解き方を学べる場面があります。

⑤自分の行動に対する責任の重さを問う場面があります。

⑥学習することの意義を問われる場面もあります。

ちなみに皆さんは、リンゴが木から落ちるのを見てニュートンは万有引力の法則を発見した。という話は知っていることだと思いますが、どうしてリンゴが落ちると万有引力の発見につながっていくのかを説明できる人はどれくらいいるのでしょうか。

物理を選択していない人には難しいことかもしれませんが、でも考えてみてください。リンゴが木から落ちたことからニュートンは万有引力の法則を発見したということだけを知っていても、あまり役に立ちませんね。そこからどうして万有引力に発展していくかを考えることこそが学ぶということです。私がいつも言う「自調」「自考」にあたるのです。何かを知るためには、この本を読んでみてください。

驚くことは、繰り返しますがこの本が書かれたのは、今から80年も前であるということ。しかも、今でも、通用する課題ばかりです。

受験真っ盛りという3年生は、それが終了してからで結構です。それ以外の人は、一度読んでみる価値はあります。そうそう、最近漫画版が出ています。原作を忠実に克つわかりやすい作品になっていますので、そちらも触れてみるのもいいでしょう。

さて、これから受験を控えている皆さん、年明けから本番の入試が始まります。不安な人もいると思いますが、健康で体調管理に気を遣い、試験に向けこれまで努力してきた人は、自信を持って試験に臨んでください。今、「まずい」と思ったあなた、これからでも決して遅くはありません。冬休みを有効に使って、希望の進路を勝ち取ってください。(後略)



式辞を述べる荻野校長